

## 2019 年度学内研究助成 成果報告書

### ① 報告者所属・氏名

文学部美学美術史学科・児島 薫

### ② 事業名

1910 年代～1950 年代の女性画家の活動におけるホモソーシャルな環境に関する分析

### ③ 事業の目的

女性が画家として自立して活動することが困難であった戦前期において、ごく一部の女性画家は画家を職業として生活することができた。そうした例において、どのような環境、活動が彼女たちに職業としての画家生活を可能としたのかを調査研究する。仮説として女性同士の連帯が重要であったと考え、その具体例を明らかにする。

### ④ 事業実績・研究成果（具体的に）

1. 明治から 1950 年代までの女性画家たちの活動について教育制度、展覧会制度、市場の観点から総合的にまとめ、国立西洋美術館でおこなわれた「日本・フィンランド外交関係樹立 100 周年記念 モダン・ウーマン—フィンランド美術を彩った女性芸術家たち」展に際しておこなわれた国際シンポジウムにおいて発表した。シンポジウムはフィンランドの女性画家に関する発表が中心であったが、発表者は日本の状況を包括的に論じ、比較材料を提供した。その原稿をもとに、同館紀要に投稿し、掲載された。
2. 香雪記念資料館に寄贈されていた有馬さとえ作油彩画 2 点を小林絵画保存修復工房によって修復し、香雪記念資料館で「女性への教育と美術」展（2020 年 1 月 6 日～1 月 31 日）を開催し、展示した。展示では女性画家で教育者であった武村耕靄、河鍋暁翠の作品などとともに修復を終えた有馬さとえ作品を展示し、女性による女性への教育についても考察する内容とした。簡単な解説用紙も配布した。また有馬さとえ作品については同館館報 17 号に「有馬さとえ《五月の窓》と《チャイナドレスの女性》について」を投稿した。有馬さとえについて先行研究をまとめ、ご家族にインタビューをおこない、有馬さとえの活動が母や姉、またその家族によって支えられていたことを認識することができた。さらに《チャイナドレスの女性》のモデルについて、弟子で経済的に支援もした島津経子と同定し、制作年を 1950 年頃と推定した。
3. 上村松園と同時代の女性日本画家たちの活動について比較検討し、あわせて松園作品についての新資料の分析をおこなった内容を明治美術学会で発表し、本学の文学部紀要にまとめた。

以上、女性画家をめぐる総合的な視点によるまとめと、日本画家、洋画家の具体的事例に焦点をしばった研究をおこない、発表することができた。

### ⑤ 研究成果の発表・活用（学会発表・論文掲載・地域連携・産学連携など）

\*国際シンポジウム「近代の女性芸術家たち：フィンランドと日本」（2019年6月19日、

国立西洋美術館)において「近代日本の女性画家たち-教育、展覧会、市場」を発表。同内容を国立西洋美術館紀要24号、2020年3月、p. 45-56に掲載。

\*明治美術学会で学会発表「文展における美人画の隆盛と女性画家について-松園を中心に-」(2019年11月9日、東京国立近代美術館)

同内容にもとづく論文を「上村松園《焰》の制作意図とその背景について」実践女子大学文学部『紀要』62集、2020年3月、p. 1-15に掲載。

\*香雪記念資料館所蔵品による展示「女性への教育と美術」展(2020年4月13日 1月6日～31日)の開催と解説パンフレットの制作。

\*「有馬さとえ《五月の窓》と《チャイナドレスの女性》について」『実践女子大学香雪記念資料館館報』17号、2019年度、p. 59-64。

#### ⑥ 今後の展開・継続性について

今後も引き続き有馬さとえ、朝倉摂など香雪記念資料館の収蔵品を中心に研究を継続する。特に1940~50年代の活動について、研究を展開する予定である。